

製品名: ヒストン H3.3 (リン酸化 Ser31) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04781**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	H3F3A
別名	H3F3A; H3.3A; H3F3; PP781; H3F3B; H3.3B; Histone H3.3
遺伝子 ID	3020/3021
SwissProt ID	P84243
免疫原	抗血清は、ヒトヒストン H3.3 の Ser31 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 16-65

背景

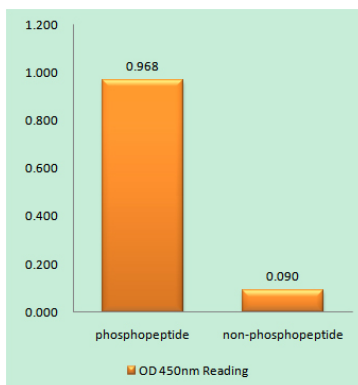
ヒストンは、真核生物の染色体繊維のヌクレオソーム構造を担う基本的な核タンパク質です。4つのコアヒストン

(H2A、H2B、H3、H4) はそれぞれ2分子ずつ集まって八量体を形成し、その周囲に約 146 bp の DNA がヌクレオソームと呼ばれる繰り返し単位に巻き付いています。リンカーヒストン H1 は、ヌクレオソーム間のリンカー DNA と相互作用し、クロマチンを高次構造に凝縮する役割を果たします。この遺伝子はイントロンを含み、mRNA はほとんどのヒストン遺伝子とは異なりポリアデニル化されています。コードされているタンパク質は、ヒストン H3 ファミリーの複製非依存型メンバーです。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、発生段階: DNA 合成とは無関係に細胞周期を通して発現します。機能: 活性遺伝子の広範囲のヌクレオソームにおいて、従来の H3 を置換する変異ヒストン H3。非分裂細胞におけるヒストン H3 の主要な形態を構成し、DNA 合成とは独立してクロマチンに組み込まれます。転写遺伝子全体のヌクレオソーム置換部位に沈着するため、転写活性クロマチンのエピジェネティックな痕跡を形成していることが示唆されます。

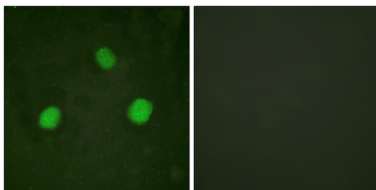
研究分野

タンパク質アセチル化

画像データ



ヒストン H3.3 (リン酸化 Ser31) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



ヒストン H3.3 (リン酸化 Ser31) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした画像です。